



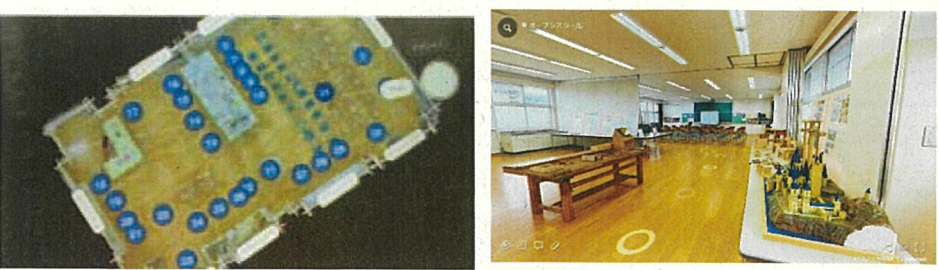
ながさき建設産業助成事業 活動実施報告書

※本様式はセンターのHPに掲載します。

活動の題目	公益社団法人日本技術士会九州本部長崎県支部 技術力向上及び社会貢献に資する活動
事業者名 (学校名)	公益社団法人日本技術士会九州本部長崎県支部
代表者	長崎県支部長 山口 昭光
目 的	<p>技術士は、技術士の専門的知識や技術力、高い倫理観といった資質能力を客観的に保証する資格です。県内に技術士は447名が登録し、建設部門213名（48%）、機械部門71名（16%）、農業部門57名（13%）、応用理学部門27名（6%）その他となっています。建設・農業・応用理学の296名は、地方自治体、建設コンサルタント等に属し社会資本整備の担い手として関わっています。技術士の活動は、その資質能力を維持し向上させることが目的です。</p>
実施内容	<p>「科学技術に関する技術的専門知識と高等の応用能力及び豊富な実務経験を有し、公益を確保するため、高い技術者倫理を備えた技術者」の育成を図るため、国による資格認定制度（文部科学省所管）です。</p> <p>技術士の資格取得後も「技術士は、常に、その業務に関して有する知識及び技能の水準を向上させ、その他その資質の向上を図るよう努めなければならない」と技術士の責務があります。長崎県支部は「技術士及び技術者の倫理の啓発」、「技術士の資質向上」を図るため、研修会4回／年、見学会1回／年を実施しています。</p>

ながさき建設産業助成事業 活動実施報告書

※本様式はセンターのHPに掲載します。

<p>活動の題目</p>	<p>建設業に従事するために必要なスキルの習得</p>
<p>事業者名 (学校名)</p>	<p>長崎県立長崎工業高等学校</p>
<p>代表者</p>	<p>北川 友也 松尾 陽平</p>
<p>目的</p>	<p>超リアル3D空間の制作 最新技術に触れながら、超リアル3D空間を構築し、将来を担う 人材育成につなげる</p>
<p>実施内容</p>	<p>(自由欄)</p> <p>① 購入させて頂いた3D空間撮影機材</p>  <p>② 納入後職員への研修の様子 3D空間撮影マニュアル説明・実技・タブレット操作</p>  <p>③ オープンスクール会場をスキャンし、3Dで立ち上げることができた。</p>  <p>④ デジタルインテリア科展に向けて、職員・生徒で研修を重ねている。</p>

⑤ 第29回インテリア科展開催

2月15日（木）～18日（日）

下記の3Dデジタルインテリア科展も職員・生徒で製作した。

でじたるインテリア科展のURLです。

<https://my.matterport.com/show/?m=46XUazEsurZ>



ながさき建設産業助成事業 活動実施報告書

※本様式はセンターのHPに掲載します。

活動の題目	建設分野でのドローン活用技術の学習
事業者名 (学校名)	長崎県立島原工業高等学校 建築技術科
代表者	学校長 山口 勇 建築技術科 教諭 寺田 潤一郎
目的	ドローンや関係教材を使ってドローンの基礎知識と技術を習得すること
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> • ドローンに関する基礎知識と関係法令の学習 島原・雲仙ドローンスクールに講師を依頼し、各学年に講義および実技指導を実施 3年生2時間×2回 2年生2時間×2回 1年生2時間×1回 2年生および3年生は昨年に続き実技を中心に指導を受けた。1年生は関連法規や資格の必要性や基礎知識としての講義を中心とした内容。また、ドローンスクールが作った本校の紹介ビデオ(3分程度)を見て、ドローンの活用を知ることができた。 • ドローン操縦技術の習得 昨年購入したドローンを使って練習をするが、生徒及び教師が資格を持っていないので体育館および実習棟の中でしか動かすことができないが生徒は機材が増えてたくさん操縦する機会が増えて良かった。 • 課題研究の中での実技 島原・雲仙ドローンスクールの講師と共にドローンレースを体験でき、操縦技術を高めることが、今後、就職先などで役立つ大きなきっかけとなった。 • オープンスクール 中学生を対象にしたオープンスクールにて、スパイダーを取り付けて、少しでも操縦をさせた。生徒の関心は高く、感想にも多く記入され、次年度の入学希望者を昨年より多かった。今後の建築業後継者が増えそうである。





ながさき建設産業助成事業 活動実施報告書

※本様式はセンターのHPに掲載します。

活動の題目	<ul style="list-style-type: none"> デジタルカメラによる画像記録
事業者名 (学校名)	長崎県立佐世保工業高等学校
代表者	永 田 庄 藏
目 的	<ul style="list-style-type: none"> 各種実習や現場実習などの画像を記録することにより、事後の各種活動への資料作成や指導資料として活用する。
実施内容	<p>(自由欄)</p> <ul style="list-style-type: none"> 防塵、防水対応になっており、雨天時の施工実習や課題研究、グラウンドでの測量実習などに使用することができ、以前に比べてデジタルカメラの使用頻度が多くなっている。 記録した画像は、実習内容の説明時や授業などでの教材作成資料として使用している。 <p>〔購入デジタルカメラ〕</p>  <p>〔撮影写真例〕</p>   <p>【課題研究風景写真】</p> <p>【現場実習風景写真】</p> <p>※適宜行を追加してください。</p>



ながさき建設産業助成事業 活動実施報告書

※本様式はセンターのHPに掲載します。

活動の題目	建設業への定着促進・人材育成のための活動
事業者名 (学校名)	長崎県立佐世保工業高等学校
代表者	建築科 永尾 剛
目的	実習や課題研究などで生徒が木工作品を製作する上で、安全性が高く、作業効率の良いものを扱うようにしていきたい。
実施内容	<p>(自由欄)</p> <p>課題研究や建築系の部活動において、木工作品の製作などを通じて、地域貢献を進めていきたいと考えている。そのための木工機械としてルーターは、生徒にも安全に使える機械として非常に活用できるものである。また、通常の製作物と比べ、作品の完成度や強度面でも違いが出るため、活用する場面が多くなる。</p> <p>工業高校として、今後地域との関りも増やしていきたいと考えており、木工作品の製作において、共同的な作業や、作品の製作提供など使用していく幅は広くあると考える。今年度校内の図書館の本棚等の製作に利用した。また、そのような活動の状況や作品の紹介などを、校外に向けてホームページやオープンスクール、文化祭などで積極的にPRし、建築科への入学希望者をさらに増やしていく一助にしていきたいと考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>※適宜行を追加してください。</p>





ながさき建設産業助成事業 活動実施報告書

※本様式はセンターのHPに掲載します。

活動の題目	建設業の働き方及び新工法について学ぶ
事業者名 (学校名)	長崎県立鹿町工業高等学校
代表者	校長 高田 佳男
目的	建設業界においてICT化が進む中で、学校では指導が困難な最新機器の取り扱い方法や施工方法について学ぶことで今後の進路指導に役立てる。
実施内容	<p>(自由欄)</p> <p>杭ナビ・VR 令和5年10月23日(月) 株式会社誠伸建設 差形 公一郎 実習場所(校内) 講義内容</p> <p>県内建設業に依頼し、最新の技術として使用されている「杭ナビ」による測量実習と、安全教育の一環で「VRによる事故体験」による安全教育を実施した。生徒は初めて経験する内容であり、興味関心を持ちながら取り組んでいた。</p> <p>杭ナビ(トプコン社のトータルステーションのこと)では、座標取得や杭打ち作業の方法を学んだ。</p> <p>VR事故体験では、現場に潜む危険ポイントについて、事故体験をした後、なぜ事故になったのか、事故にならないためにどうしたら良かったのか、そのためにどこで安全確認をしないといけなかったのかをVRを通して学んだ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>杭ナビ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>VR事故体験</p> </div> </div> <p>※適宜行を追加してください。</p>

ながさき建設産業助成事業 活動実施報告書

※本様式はセンターのHPに掲載します。

活動の題目	新しい人材獲得に向けた普通科高校生への土木教育と広報連携
事業者名 (学校名)	青春ビルドプロジェクト
代表者	デミー博士（長崎大学大学院工学研究科・出水亨）
目的	建設業界での新たな人材の獲得を目指し、普通科高等学校（諫早高校、大村高校、長崎東高校）に対して土木教育を行う。さらに高校と連携して生徒が撮影した土木写真を発信して幅広い層に土木の魅力を発信する。
実施内容	<p>【現場撮影会】</p> <p>8月8日 ▽撮影会を控えた高校写真部の生徒向けに土木についてのオンライン講座を開催（長崎県の長崎東高校、諫早高校、大村高校のほか、佐賀県の武雄高校と唐津西高校、大分県の大分上野丘高校の6校が受講）</p>  <p>8月31日 ▽諫早高校写真部撮影会＝長崎57号下井牟田赤崎高架橋床版（P5～P11）工事現場（協力：長崎河川国道事務所、竹下建設工業(株)）</p>  <p>11月1日 ▽長崎東高等学校写真部撮影会＝令和4年度長崎港航路（一12 沓）護岸撤去工事現場（協力：長崎港湾・空港整備事務所、(株)西海建設）</p>  <p>11月1日 ▽大村高等学校写真部撮影会＝令和4年度杭出津地区環境整備1期外工事現場（協力：長崎河川国道事務所、鹿島道路(株)九州支店）</p> 

【写真展】

12月25日～1月26日

▽写真展「高校生がみた土木の世界」於：福岡第二合同庁舎（九州地方整備局本局）1階ロビー



※このほか、佐賀県内の写真を中心とした巡回写真展を佐賀県内で開催。10月24日から12月15日にかけて、唐津市役所ロビー～伊万里市役所ロビー～JR武雄温泉駅～JR嬉野温泉駅・道の駅うれしのまるく～武雄市役所ロビーの5箇所で行った。佐賀県庁、JR佐賀駅での写真展も開催に向けて調整中

【紙面】

1月4日

▽『長崎建設新聞』新春号で表紙・裏表紙含め計4ページ掲載（別紙参照）。通常号でも活動状況を随時掲載。

佐賀建設新聞、大分建設新聞でも活動内容の記事を随時掲載した

【SNS】

▽インスタグラムで高校生が撮影した写真と高校生のコメントを随時掲載。



【その他】

7月4日

▽デミー博士—九州地方整備局を訪問 森戸義貴局長に青春ビルドプロジェクトへの協力を要請



7月14日

▽デミー博士—長崎河川国道事務所と長崎港湾・空港整備事務所を訪問 大場慎治所長と松延嘉國所長に青春ビルドプロジェクトへの協力を要請



※このほか、長崎経済新聞(11月7日付)や長崎県『DOVOC通信ながさき』No.54に活動が掲載された。長崎経済新聞の記事は、Yahooニュースやドコモdニュースにも転載された

